

認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク

第29回シンポジウム開催

「メンタルヘルス問題のある親とその子どもに対する在宅支援を考える」

メンタルヘルスの問題をテーマに当団体が行うシンポジウムとしては4回目となる。第1回目は、児童福祉と精神保健福祉をどうつなぐか。2回目は、親やきょうだいの世話で学校に行けないなど様々な課題を抱えているヤングケアラー問題を取り上げた。3回目は、実際にメンタル問題を抱えている方の発言を含め、支援のあり方を考えるというテーマであった。今回は、児童福祉法の改正もあり、「在宅支援」を核に、親子と一緒に地域で生活できるための支援について考えた。こうした支援は障害の有無に関わらず受ける権利があり、それをどう実現していくのかは大変重要なテーマである。

今回は子どもの虹情報研修センターの川崎二三彦氏に「子どもの虐待死を防ぐために ～メンタルヘルスの問題を抱える保護者への支援～」として、主に虐待死亡事例検証からわかること、課題などについて、事例を紹介しながら基調講演をいただいた。また、シンポジストとして、NPO法人埼玉子どもを虐待から守る会副会長であり保健師の渡辺好恵氏に「在宅支援で子どもの権利は守れるか～親と子の支援は表裏一体～」、杏林大学医学部附属病院の精神保健福祉士である加藤雅江氏に「家族を視野に入れた支援のために～精神保健福祉士ができること～」として、それぞれの立場から見えることとお話しいただいた。そして北海道の浦河からは、浦河ひがし町診療所の院長・精神科医の川村敏明氏と同ソーシャルワーカーの伊藤恵里子氏に「応援ミーティング～当事者と支援者が共に安心を創り出す場～」として、べてるの家の地域での実践の具体的なところを紹介いただいた。

パネルディスカッションでは会場からの質問や感想を受ける形で、登壇者がそれぞれの立場や視点から回答やアドバイスとして答えた。

このシンポジウムでは、「当事者を主体にする」「子どもの目線で」「親に関わっていく」という、在宅支援の「理念」が確認される有意義な機会となった。

主催：特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワーク

日時：2020年1月25日（日）12：30～16：45

場所：星稜会館

参加者：約230名